**神　手津王 （じん・てつおう）**

**１、プロフィール**

川柳作家。主に県内を中心に好作家として活躍し、青森市にある八甲田川柳社の初代代表を務めた。

＜生没＞

1921（大正10）年８月10日～1979（昭和54）年５月８日

＜代表作＞

句集『鉄路』

＜青森との関わり＞

青森市に生まれ、国鉄に勤務。

**２、作家解説**

大正10年青森市に誕生。本名鉄男。昭和22年国鉄青森用品庫勤務、以後定年まで国鉄に勤務する。

昭和28年、東奥日報紙の東奥柳壇に投句し川柳入門。昭和30年、田沢良太、三浦春風楼らと新人会結成、後に津可呂川柳社に合流。昭和48年新生の道を求めて津可呂川柳社から分かれた26人の柳人が八甲田川柳社を結成、その初代代表となる。

八甲田川柳社代表として、また好作家として県柳壇の発展に貢献、温厚で誠実な人柄で多くの柳人に慕われた。国鉄の全国川柳部門の１位に入賞する等、国鉄で全国的に活躍した。

昭和54年３月定年退職。同年５月８日死去。享年59歳。

**３、資料紹介**

〇『鉄路』

図書

1980（昭和55）年５月８日

185mm×135mm

川柳句集。遺句集、著者生前の作品より厳選し419句にまとめた。著者の人柄が滲み出ている句集である。

序文は親交の深かった奥昭二。編集田沢良太、発行神徹、発行所八甲田川柳社。